

地理的な見方・考え方を働かせる地域探究

岡山県立玉島商業高等学校

実施学年：2年
生徒数：157人（4学級）

実施教科：地理A
実施時間数：20時間（2学期後半～3学期）

本授業は地理の学びにおけるまとめとして位置づけ、今までに学んだ「地理的な見方・考え方」を用いて地域の課題を調査・解決していく単元である。2学期後半に地域の課題を調査し、3学期に解決策を考察していくこととした。

まず、生徒が地域に対するイメージを言語化するためにレゴ®を用いて、地域の課題について表現させ、イメージだけでは地域を語れないこと、「地理的な見方・考え方」を働かせて地域を調査していくことの重要性について確認した。そこでSDGsの17つの視点に担当を分け、それぞれの視点から地域について調査することとした。本来であればフィールドワークや資料館訪問等の実地調査を行う予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響のため、自治体HP等から得られる地図やデータ等を確認して課題の調査に取り組ませた。

そして、調査した内容をiPadを用いてGoogleSlideにまとめ、発表した。3学期は新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、授業内容（本来であれば3学期もレゴ®を用いた言語化を行いたかったがオミクロン株が蔓延したことにより接触をさけるために中止）もさらなる変更を余儀なくされたが、外部講師によるZoomを用いた講演、地域の課題の解決策をGoogleSlideにまとめ発表した。



学習のねらい

- ・「地理的な見方・考え方」を働かせ、持続可能な地域づくりを目指して地域の課題を見出し、解決策を考察することができる。

学習活動

（2学期後半）

- ・生徒が地域に対するイメージを言語化するためにレゴ®を用いて、地域の課題について表現する。またグループで「なぜそのようなイメージとなったか」話し合う。
- ・生徒をグループ分けし、SDGsの17視点から地域の課題を調査する。（新型コロナウイルスの影響があるためフィールドワークや資料館訪問等の実地調査はできず。）地図やデータ等から課題を見出す際に「地理的な見方・考え方」を働かせるため①他地域と比較すること②過去と比較することに取り組む。
- ・調査から分かったことをGoogleSlideにまとめ、発表する。

（3学期）

- ・生徒が地域の課題を解決するための方法を言語化するためにレゴ®を用いて、地域の未来について表現する。またグループで「なぜそのようなイメージとなったか」話し合う。（オミクロン株蔓延のためGoogleJamboardで代替）
- ・外部講師による講演を実施し、「社会をよりよくするため」の考え方や取り組み方について理解する。
- ・生徒をグループ分けし、SDGsの17視点から地域の課題を解決するための方法について考える。その際に2学期後半で調査した課題から解決策を自分たちができることという視点で見出す。
- ・調査から分かったことをGoogleSlideにまとめ、発表する。

準備品

- ・レゴ®クラシック アイデアパーツ 10セット 基礎板 10枚
- ・iPad 40台

実施場所

- ・教室

学習の流れ

場所・授業数	概要	活動の様子	反応
2時間 教室	<ul style="list-style-type: none"> ●生徒の地域に対するイメージ ・生徒が地域に対するイメージを言語化するためにレゴ®を用いて、地域の課題について表現する。 ・グループで「なぜそのようなイメージとなったか」話し合う。 ・相互にグループで回覧し、自身が気付かない課題について発見し、「地理的な見方・考え方」を働かせて地域を調査していくことの重要性に気付く。 		<ul style="list-style-type: none"> ●生徒の授業の振り返りコメントより ・「玉島地域の海拔が低いことに着目し、クラスの多くのレゴが水没する様子をイメージしていたが、人口問題や産業の問題もあり、気付かない問題に気付けた。」 ・「なんとなくのイメージがレゴでうまく表現できて、課題だと感じていることをみんなで共有できてよかった。」
4時間 教室	<ul style="list-style-type: none"> ●地域課題の調査 ・生徒をグループ分けし、SDGsの17視点から地域の課題を調査する。 ・地図やデータ等から課題を見出す際に「地理的な見方・考え方」を働かせるため①他地域と比較すること②過去と比較することに注意して取り組む。 <p>(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ①地場産業の集中・海拔の低さ・少子高齢化率の上昇・商業施設の減少・学校の統廃合など ②干拓地であること・江戸時代からの港町・工業地帯の開発など 		<ul style="list-style-type: none"> ●生徒の授業の振り返りコメントより ・「他地域や過去と比較することで玉島地域の課題が浮き彫りになった。」 ・「今まで学んだことを生かして地域の課題について発見することができた。」
2時間 教室	<ul style="list-style-type: none"> ●発表準備 ・調査から分かったことをGoogle Slideにまとめる。 		<ul style="list-style-type: none"> ●分かりやすいプレゼンについてレクチャーすると生徒は意欲的に取り組んでいた。
2時間 教室	<ul style="list-style-type: none"> ●発表・まとめ ・作成したGoogleSlideを発表する。 		<ul style="list-style-type: none"> ●生徒の授業の振り返りコメントより ・「様々な視点から玉島地域についての課題を調査すると自分が思っていた以上に課題があった。」 ・「地域の高校生である自分たちが課題を解決していかなければならないなと感じた。」

学習の流れ

場所・授業数	概要	活動の様子	反応
3時間 教室	<ul style="list-style-type: none"> ● 未来の理想の地域のイメージ ・ 生徒が地域の課題を解決するための方法を話し合う。 ・ GoogleJamboard で2学期の発表の内容からどのように解決できるかイメージを探る。 		<ul style="list-style-type: none"> ● 生徒の授業の振り返りコメントより ・ 「自分たちでは気が付かないアイデアを発見することができて面白かった。」 ・ 「みんなの付箋からヒントをもらったので自分たちの解決策に活用したい。」
2時間 教室	<ul style="list-style-type: none"> ● 外部講師による講演 ・ 一橋大学大学院社会学研究科博士課程研究補助員の川尻剛士さんに Zoom で講演をしていただく。 ・ 「どのようにして若者は社会参画しているのか?」と題して、日本や世界の若者が自分たちが住んでいる地域の課題に取り組んでいる事例を紹介していただき、地域の課題に対して自分ごととして取り組む重要性を理解する。 	 	<ul style="list-style-type: none"> ● 生徒の授業の振り返りコメントより ・ 「街の将来を担う若者の1人として、自分ごととして考えて行動していきたい」 ・ 「世界のことは変えられないけど地域のことは変えられそうなので、できることからしたい。」
2時間 教室	<ul style="list-style-type: none"> ● 発表準備 ・ 今まで学んだことから自分たちができる解決策を話し合う。 ・ 話し合った内容をGoogleSlideにまとめる。 		<ul style="list-style-type: none"> ● 2学期後半の反省を生かし、聞き手に伝わるプレゼンを目指して取り組んだ。
3時間 教室	<ul style="list-style-type: none"> ● 発表・まとめ ・ 作成したGoogleSlideを発表する。 	 	<ul style="list-style-type: none"> ● 生徒の授業の振り返りコメントより ・ 「本当に実現してほしい取り組みがいくつもあって興味が湧きました。」 ・ 「課題だけ見ると大きすぎて取り組めそうにないけど、みんなの発表を聞くと、玉島だからできることがあると思えました。」

生徒の作品

2学期に作成したスライドの一部と3学期に作成したスライドの一部

①8「働きがいも経済成長も」を選択したグループ

比較して分かったこと

①過去と比較
玉島の港は江戸時代初期に干拓事業によって整備された港で瀬戸内随一であった。そのため味噌醤油・酒造りなどが発展し、今でも特産物としてある。

②他地域との比較
県内でこれだけ地場産業が集中している地域はあまり見られない。



②13「気候変動に具体的な対策を」を選択したグループ

比較して分かったこと

- ・玉島地域は昔海だった！江戸時代に新田開発のため干拓され現在の陸地へ。
- ・そのため倉敷市内と比較しても海拔が低く、ハザードマップで比較しても浸水地域が多い！

→歴史から見ても他地域と比較しても洪水や高潮への対策が必要だと分かる！



解決策

せっかくの特産物なのに知名度が低いので・・・

- ・インターンシップの受け入れ先としてお願いして私たち自身がまず知る
- ・味噌醤油や地酒を高校生がPRする



解決策

- ・土地の低さはどうしようもできない！
- 私たちの意識を上げるしかない！

- ①少子高齢化が進んでいるので周囲の高齢者に防災セミナーを開く
- ②隣の玉島幼稚園と合同で防災訓練を行う（なんと来年実施する予定らしい！）



2学期後半では玉島地域についてぼやけたイメージだった生徒が、他地域と比較すること・過去と比較することを通して玉島地域の特徴に気付き、自ら探求を進めて行った結果、玉島地域はどのようなことが課題でどのようなことに取り組んでいくべきか、まとめることができていた。

先生の声

実施に当たり工夫した点 苦労した点

- ・新型コロナウイルス感染症の影響で、学びのフィールドが教室内に限られてしまったため、実施することができない授業内容があった。
- ・本校は商業を学ぶ実業高校であり、個々の生徒の学力差の開きがあるが、レゴ®を活用して生徒のイメージを造形物として表現し、言語化することで、生徒相互の考えの共有が容易となった。
- ・データ等を活用する際のポイント（他地域との比較・過去との比較）をあらかじめ示すことで、根拠有るデータの引用ができるようになった生徒が多かった。
- ・GIGA スクール構想によって導入された iPad・GoogleWorkspace を活用することによって、生徒が調査結果をまとめ、発表することで、生徒に自分ごととして捉えた。

児童・生徒の反応

- ・レゴ®を用いて、イメージの言語化を行うことで、教師が知らない生徒の気付きや考えが成果物として表現されていた。
- ・生徒は学校がある地域について、教師が考えるよりも知らないことが多かった。そのため本授業によって、地域の課題に対する興味関心が高まり、ボランティア活動や課題探求活動に繋げる姿勢が見られた。（3年次で課題研究という科目がある）

先生の声

教師の変化
(担当、担当外を含めて)

- ・教師が生徒の気付きや考えをすべて把握することが難しいが、生徒が自らの思考をレゴ®を含めた様々な手段で、表現することが重要であると感じた。特に、思考を言語化することに困難を感じている生徒にとっては、モノをつくることで思考を整理することができると感じた。
- ・改めて街を知るためには実地調査が重要であることを感じた。今回、新型コロナウイルスの影響で実施はできなかったが、来年度は改めて実施し、現地でしか分からないことを生徒に考えさせたい。

その他

学校予算ではレゴ®を購入できる余裕がないため、今回このような機会を与えていただき感謝しております。今後も生徒のクリエイティブな発想力を生かして、学校と学校外のシームレスな学びを行えるように自己研鑽に励みたいと考えております。